

2017年3月31日
発行/日本共産党市議団地域版
自宅/市川市菅野2-14-14-206
Tel/fax 047-323-3640
携帯 090-6310-3294
shimizu@jcp-ichikawa.com
ブログ
http://jcp-shimizu.sblo.jp

日本共産党市議会議員

清水みな子

あおぞらメール No.99



2月市議会
一般質問

住民に知らせずに 都市公園を廃止

2月議会での一般質問は、3月14日午後1時から行いました。高齢者福祉、婚活支援事業、都市公園の廃止、小塚山公園の拡充、北国分のまちづくりについて質問しました。公園問題を一面で取り上げます。

12月議会で、手児奈橋公園内の自動車の通行許可について質問しました。1月16日付で突然、手児奈橋公園と桜土手公園の2箇所が都市公園として廃止になりました。住民には、まったく知らされていません。なぜ廃止したのが、質問しました。

市の公園は「水と緑の部」が担当しています。二つの公園は、手児奈橋公園は昭和48年3月に、桜土手公園は昭和47年2月に、公園面積が不足していたので、用水路や水路敷きを有効に活用して



桜の名所、桜土手公園。当初から車の出入り通路はあった

都市公園としました。当時から車両出入り用に通路が設置されていたという事です。廃止に至った経過として、「二つの公園に隣接する居住者の車両は、公道に出るために、公園を通行する必要がある。都市公園法では車両の通行を一般的には想定しておらず、通行を認めることは望ましいことではないが、車両の通行を禁止することもできない。都市公園法16条1号の規定により廃止した」というのです。

都市公園の保存」として、「みだりに都市公園を廃止してはならない」としてはいますが、市は16条1号「公益上特別の必要がある場合」によって公園は廃止するというのです。また、市川市都市公園条例では、16条に公園を廃止しようとするときは、必要とする事項を明らかにしてその旨を公告しなければならぬとされていますが、「1月16日付で廃止する」としか書いて

小塚山公園の拡充 整備について

小塚山公園と堀之内貝塚公園に挟まれた「どうめき谷津」の一部を「緑の拠点」づくりとなるよう、環境活動やレク、谷津の原風景を有する特色ある地区公園として拡充整備をすすめています。近隣の方、25名が参加し4回のワークショップを開催。主な意見としては、原風景をイメージする体験施設としての谷津田の再生、地下水を活用した水辺の再生、駐車場やトイレの有無、エコプ

これらのご意見は、谷津田や水辺の再生には、北総鉄道のトンネル内の地下水や既存の井戸が利用できるかどうか、公園内にパーゴラやベンチの休憩施設の設定などを検討しているということです。今後のスケジュールとしては、29年度に測量、地質調査、埋蔵文化財調査を実施し、30年度以降に、実施設計、整備工事に着手、全面開園は33年度を予定。費用の半分は国の交付金を活用するという事です。

ありませんでした。

公園面積が不足していること、昭和47、48年に都市公園にしたのに、いまも市内では、公園が足りているとは思えません。桜土手公園と名がつくように、みごとな桜が今年も咲いています。公園の下では、保育園の子どもたち、親子連れなど、たくさんの方が、市外からも訪れる場所です。ほんとうに「廃止」してよいのでしょうか。

一市の婚活支援事業 全員参加できるイベントを



近年、自治体での「婚活」支援事業が広がり、県段階でも、千葉県と東京都、大阪府を除いて支援事業があります。とくに少子化対策や後継者対策などありますが、いまの若者は、まずは就職についても長時間労働で、出会いがないという現実があります。

国立社会保障・人口問題研究所の調査によりますと、「適当な相手に巡り合わない」が24歳から35歳までの男女の一番目となっています。

市川市は今年度から婚活支援事業をはじめました。男女別の登録人数、イベントの取り組み状況を聞きました。

平成29年2月末現在、手続きが完了した方は340名。男女ほぼ同数で、市内2と市外1の割合だということです。イベントは2カ月に1回、毎回約30名の参加。自己紹介、グループトークを行い最後

にペアを発表。登録している方から「応募してはくれていない」という声を聞き、1回のイベントに何人の応募があるのか聞きました。30名のイベントへの応募130名、100名がはずれています。新年度も、この事業は続けることになりました。それで、すべての登録者が1年に1度は参加できるようにしてほしいと要望しました。これに対して、「大型のイベントを検討する」と答弁しました。

また、中国分で「エンムス会」という自主的な婚活支援をしている団体の方から、市の事業を手伝いたいという申し出があり、市の対応を聞きました。市は「個人情報を取り扱いもあり本事業に第三者が関与することは慎重に考えたい。本事業は市の魅力を発信するシテイセールスの要素も含まれているので、市が主体となつてすすめている」ということでした。他市で財団に委託して事業をすすめている例を紹介し、若者と本気で向き合っほしいと要望しました。

現在の市役所本庁舎が移転します

議会事務局・控え室・議場は5月15日から、南八幡2・20・2市役所仮本庁舎へ移転します。他の部署も順次移転し、5月8日からは、仮本庁舎とJR本八幡駅を結ぶ送迎バスが運行されます。

また、地域振興課、市民安全課、ボランティア・NPO課は、4月10日から、八幡市民談話室に移転します。地域支えあい課、保健医療課、まち並み景観推進課は、勤労福祉センター本館の前の分庁舎C棟に移転。

期間は平成32年4月までの予定です。ご不便をおかけします。

無料法律相談

◎4月11日(火)
担当 島貫美穂子弁護士
◎6月13日(火)
担当 岩橋進吾弁護士
午後2時から5時まで
相談時間はひとり30分
予約は清水または控え室。

《主な活動報告 2～3月》

☆2月25日 新婦人支部大会で市政報告

市民負担増を続ける大久保市政の特徴を分析した報告を行い、11月の市長選に向けて、共同の候補者を擁立できるように一緒に知恵をだしましょう、と挨拶。

☆2月25日 国分地域で「介護カフェ」開く

午後からケアマネさんを囲んで、介護保険制度の流れなどを学習。ご主人が介護認定を受けた方が「期限が切れていたことを知らなかった」とか、奥さんが特養ホームに入っている方からは「一か月分の利用料が2万5千円も増えた」などの報告もありました。介護認定に直面していないとわからない問題などもあり、これからも学習を続けていくことになりました。

☆2月26日 チャレンジドミュージカル

障がいを持っている人もいない人も、大人も子ども

もみんな楽しく。2005年にはじめたチャレンジド・ミュージカル。2015年劇団「JANBO (ジャンボ)」を結成しました。毎年見続けていますが、みんな生き生きとしていて、元気をもらえます。

☆3月11日 さよなら原発いちかわパレード

今年で6回目となる市民集会です。「さよなら原発 被災者支援」をかがげて、横断幕やプラカード、風船もたくさん作りました。会場となった駅南公園に500人が集まりました。県知事候補のすみや信一さんも駆けつけ、挨拶。集会の賛同人は1000人を超えました。集会後は、市川コースと本八幡コースに分かれて沿道からアピールしました。

